日新聞　第3種郵便物認可

治水工事「環境破壊の恐れ」

清瀬の柳瀬川 市民団体呼びかけ署名3600筆

埼玉県所沢市を源に、清瀬市などを流れる1級河川・柳瀬川の工事を巡り、都と清瀬市民の考えが平行線をたどっている。年内にも工事に着工したい都に対して、一部の市民は工事計画の変更を呼びかけ、署名数は約3600筆に上っている。

コジュケイの声が聞こえる。時にはオオタカの姿も見られる。柳瀬川周辺には、豊かな樹木や野鳥が生息する。河川沿いは「柳瀬川回廊」の散策コースともなっている。

「私たちはこの自然環境を将来に残したいだけ。一度壊れたら、元には戻らない」。工事に反対し、署名活動に取り組む市民団体「川づくり・清瀬の会」の宮沢とよ美会長(76)は、こう話す。

同会によると、柳瀬川は戦後、住宅などからの汚水でどぶ川となった。しかし、都が1981年に下水道を整備し、宮沢さんら市民有志もゴミ拾いを始めた。90年代後半には水は澄み、小魚が生息するまでに回復した。

一方、市街地化の進行に伴って、集中豪雨などの際に、川の水があふれて浸水被害が起きるようになった。このため都は、柳瀬川と支流の空堀川の合流地点を400㍍上流に移すことを計画。2006年からは地域住民らとの懇談会を開き、計9回話し合った。都によると、参加した住民からは「自然環境の保全は大切だが人の命、財産を守ることが第一」など、工事の必要性を認める意見が多かったという。

宮沢さんらも懇談会に参加し、ある程度の治水対策はやむを得ないと考えていた。しかし、15年12月に発表された計画では、新しい合流地点近くに柳瀬川への水量を調節する分水施設や護岸工事が盛り込まれていた。

宮沢さんらは「これでは川の自然環境を損なう恐れがある」と反対。もっと景観や生態系を損ねない対策に変更することを求めて署名運動をスタート。映画監督宮崎駿さん＝所沢市在住＝も署名した。

宮沢さんは「合流地点の環境は私たち団体がことのほか大事に思い手をかけてきた場所。毎日訪ねたくなるような環境・景観を残してほしい」と話す。

都は今年度、柳瀬川全域の工事費として約1億2千万円を計上。反対がなければ合流工事に着工する予定だった。

都北部建設事務所は、安全を確保しつつ環境も維持しているとする。修整の余地もあるが、分水施設の設置などの基本部分にかかわる大きな変更は難しいという。今後も「清瀬の会」と話し合う予定だが、荒川晴夫・工事第二課長は「治水、安全確保は待ったなしの状況なので、納得を得られるよう説明を尽くしていきたい」と話す。（高橋友佳理）

合流工事が行われる柳瀬川周辺を眺める川づくり・清瀬の会のメンバー。右手には河畔林が広がる＝清瀬市

宮崎駿さんも署名■都は「安全確保」強調

柳瀬川の河畔林で捕食するオオタカ＝2011年撮影、川づくり・清瀬の会提供